国際医療福祉大学　2015年8月31日発行　学校法人国際医療福祉大学　☎0287-24-3000
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

vol.102
August
2015

International University of Health and Welfare

平成27年度

関連職種連携教育

関連職種連携ワーク報告会
関連職種連携実習

第20回 大田原キャンパス運動会

IUHW International University of Health and Welfare
vol.102 August 2015

CONTENTS

2.3 特集1 関連職種連携教育
関連職種連携ワーク報告会／
関連職種連携実習

4.5 特集2 運動会 ●大田原キャンパス

キャンパスレポート
6-9 福岡キャンパス／大川キャンパス／小田原キャンパス／大学院／塩谷看護専門学校

トピックス
10 国際関係特集 ミャンマー保健大臣が本学を来訪し、医療協力推進について協議／国際医療福祉大学 モンゴル国立医療科学大学との大学間協定を締結／元培醫事科技大学研修生受入報告
11 成田キャンパス開設決定
第3回 留学生が見た母国と日本の保健福祉事情
12 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生認証式／平成27年度 国際医療福祉大学 年間成績優秀賞表彰式／平成27年度 IUHW奨学金授与式のご報告
13 山王病院新棟竣工祝賀会 国際医療福祉大学20周年記念祝賀会を開催／平成26年度 大学機関別認証評価結果について／看護学科 国際医療福祉大学IPA-GPチームの活動について／看護学科「保護者のための就職活動講座」開催
14 視機能療法学科 科研費基盤B研究成果報告会／薬学科 「実務実習宣誓式」開催／医療福祉・マネジメント学科「医療福祉学部フォーラム」開催／ボランティアセンター 「宮城県岩沼市植樹祭」に参加
15 総合教育科目「郷土論～栃木学～」で津久井富雄大田原市長が講義／「英語医療通訳入門」開講／「将棋で養う社会力」開講／2014年度 卒業生国家試験報告

看護特集
16 認定看護師：患者様・ご家族の代弁者として／特定行為に係る看護師：看護師と医師、両方の視点を持つナースプラクショナー／看護研究会：国際医療福祉大学グループにおける大学と臨床の連携

施設インフォメーション
17 国際医療福祉大学塩谷病院／国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院

18 同窓会通信
19 生涯学習のご案内
20 学生投稿ページ

特集1 関連職種連携教育

平成27年度 関連職種連携ワーク報告会 関連職種連携実習

本学は、患者や利用者を中心に各職種が連携し、質の高い医療やケアを提供できる人材を養成するために、連携技能の修得を重視した「関連職種連携教育」を行っている。これは、「早期体験実習」（施設見学）→「関連職種連携論」（講義）→「関連職種連携ワーク」（演習）→「関連職種連携実習」（臨床実習）へと段階的に進む本学独自のカリキュラムである。

●本学オリジナルの教科書を使用

関連職種連携ワーク報告会

「関連職種連携ワーク」は問題解決型体験学習で、今年度は全学科から合計九五二名の学生が履修登録した。

学科混成の六〇チームを編成し、各チームにチューター教員がついて、与えられた事例について、解決方法と職種間連携のあり方について討議した。

六月二七日、大田原キャンパスで「関連職種連携ワーク報告会」を行った。午前の部は「事例内報告会」として、「事例一～一二」、「電子カルテ」、「グローバル」が一二教室に分かれて、一〇分間の発表と八分間の質疑応答を行った。午後の部は、まず、「事例代表報告会」として、「事例内報告会」の各教室から互選によって選出された事例代表、グローバル代表の一二グループが三教室に分かれて、再度発表を行った。

その結果、各教室から優秀賞が選出され、それぞれの教室で表彰式を行った。

●事例内報告会の様子

優秀賞 13チーム

事例 頭部外傷、右片麻痺、高次脳機能障害、けいれん発作について（チューター教員：藤田亘）

NS3年 石橋ゆかり、草野祥徳、相馬佳奈
PT3年 麻山智信、石川沙織
OT3年 石井美彩貴、石橋盛斗紀
ST3年 近藤瑛奈
ORT3年 吉田美沙紀
RT3年 竹松勇貴、羽石太樹
SHM3年 小堤敦子、石井瑞希、稲垣直浩
PS3年 アマザデハラエラヘ、江幡瑞希、櫻井菜奈

優秀賞 56チーム

事例 食道癌について
（チューター教員：前澤佳代子）

NS3年 加藤麗未、萩野谷里菜
PT3年 杉田裕汰
OT3年 塩田桃子、清水章弘
ST3年 丸山黎佳
RT3年 駒場珠恵、今野雅人
SHM3年 金子貴史、満山佳奈、小塙恵里
PS3年 菊池拓也、立花偲織、根子明弓、村岡嵩章

優秀賞 85チーム

事例 脊髄損傷、四肢麻痺について
（チューター教員：今野広紀・酒井健）

NS3年 澤畑里香、守田彩香
PT3年 塙雄太、綿引仁美
OT3年 東山知未、増山直希
ST3年 山内楓麿
RT3年 千野健太郎、渡邉恭平
SHM3年 細井柚里、松本佳菜、横谷凪砂
PS3年 種田雄大、森島景子、山﨑拳

学科名称
NS：看護学科
PT：理学療法学科
OT：作業療法学科
ST：言語聴覚学科
ORT：視機能療法学科
RT：放射線・情報科学科
SHM：医療福祉・マネジメント学科
PS：薬学科

関連職種連携実習

八月一日～七日、「関連職種連携実習」が行われた。四つのステップからなる「関連職種連携教育」の仕上げとなるこの実習では、「関連職種連携ワーク」と同様に学科混成チームを編成。このチームで病院や福祉施設に出向いて、実際の患者さんや利用者さんを対象に一週間の実習を行った。今年度は全学科から一八〇人の学生が二〇のチームに分かれ、本学の附属病院や関連施設など一五の施設に出向いた。

●チームで総合サービス計画を立案

実習先では、まず各職種の現場を訪れることから始まる。これにより、他職種への理解をも深めるとともに、チームが担当する患者さんや利用者さんの情報を収集する。これに基づいてアセスメントを行い、結果をサマリーにまとめた後、治療計画やサービス計画を作成する。

●全員で発表資料を入念にチェック

最終日には、担当の医師や専門職とともにカンファレンスに参加し、チームでまとめた治療計画やサービス計画を発表する。ここで出された意見や質問を吟味することで、計画案はより現実的なものとなっていく。まさしく本物の「職種間連携」の体験である。

これを受けて、八月二九日には大田原キャンパスで「報告会」が実施される。

（大田原キャンパス 教務課 深野涼子）

●カンファレンスでの発表

20th 2015 May 23 大田原キャンパス 運動会

5月23日、大田原キャンパスで20回目の運動会が開催された。
気温は30度近くまで上がったものの、
強い直射日光や風に悩まされることのない
絶好のグラウンドコンディションに恵まれた。
総合優勝は理学療法学科、応援合戦の優勝は看護学科と
いずれも連覇が続いたが、
応援合戦では新たな趣向に挑戦する
学科があり、来年に向けてさらに
レベルアップしてくることが
期待される。

●撮影協力は写真部

綱引き ダッシュ

バットde グルグル

倒れ込みながらの たすきリレーが 続出!

リレー

3分間 ジャンピング

栄光の 架け橋

応援合戦の優勝は 看護学科の 「よさこいソーラン」

総合優勝に輝いた 理学療法 学科

●実行委員は総勢114人。競技の進行の合間には各学科のテントを回って冷却用の氷を配給。

実行委員長は若林諒さん（薬学科1年）

学科対抗 応援合戦

●言語聴覚学科

●看護学科

●理学療法学科

●薬学科

●医療福祉・マネジメント学科

●視機能療法学科

●放射線・情報科学科

●作業療法学科

第25回 キャンパスレポート 福岡

運動会中止による学生の自主活動

五月一六日の運動会の応援合戦のために、入学して間もない一年生は、講義終了後や空き時間に自主的に集まって練習し、本番の数日前からは夜九時まで残っての特訓を重ねてきた。

しかし、運動会前日、残念なことに中止が決定した。この知らせを聞いた実行委員の一年生は、「応援合戦だけでもできませんか？ みんなに声を掛けて集めますので！」と練習の成果をぜひとも披露したい様子であった。二年生も一年生の頑張りを知っているので、「お願いします」と後押しをした。学生の「横の繋がり」と「縦の繋がり」が一度に見られた瞬間だった。

翌日、一年生が全員集合し、駆けつけた二年生や教職員が見守る中、大学院福岡キャンパスの六階で応援合戦を行った。

終了後に「できてよかったです。ありがとうございます」と笑顔で話す彼らのこれからの学生生活を全力で応援していきたいと思うと同時に、今後もさらに自主性を発揮して活躍してほしいと感じた一日であった。

（准教授　中山晃志・講師　花田陽子）

●応援合戦の発表会を終えて

クリスチャン大学学術会議発表

四月二二～二三日、タイ・バンコクで国際学会（タイ・クリスチャン大学主催）が開催された。大会のスローガンは「グローバルナース　キーサクセス　トゥ　ユニバーサルヘルス」。

本学からは私たち福岡看護学部教員の二名と、荒木田美香子教授（小田原）、デッカー清美講師（大田原）が参加した。フィリピンからの参加者もあり賑やかに開催された。私たちはそれぞれ、「温湯に手を浸すのみの場合と手浴マッサージとの関節可動域に及ぼす効果の相違」、「多様な分娩体位の実践助産師と未実践助産師の内的、外的要因の相違」というテーマで発表した。国際学会での口頭発表は二人とも初めての経験で、発表直前まで原稿の修正をし、緊張のなかで本番を迎えたが、無事に発表を終えることができた。活発な意見や質問もあり、今後につながる貴重な体験となった。このような機会を与えてくださった皆さまに厚く御礼申し上げます。

（准教授　永井あけみ・准教授　篠崎克子）

●会場にて各国からの参加者と記念撮影

海外保健福祉事情事前発表会・壮行会

七月一〇日、福岡キャンパスにおいて、海外保健福祉事情事前発表会・壮行会を開催した。本年度は、海外研修に参加する三年生に加え一・二年生も事前発表会に参加した。

ＭＥＲＳにより派遣中止となった韓国も含め、ハワイ、オーストラリア、台湾、ベトナム、タイ、ミャンマーの七つの国や地域の医療福祉制度や文化について各グループよりプレゼンテーションが行われた。発表の資料も内容も年々充実度が増しており、質疑応答も活発であった。

この作業を通じて研修先での課題や目標設定を明確にすることができたのではないだろうか。

また、壮行会では、学生の「一致団結してがんばろう！」という熱い思いが感じられ、海外研修を体験をすることにより多様な価値観に触れ、帰国後はひと回り成長した学生と事後報告会で会えることを確信した。

（講師　姫野深雪）

●発表会でのプレゼンテーションの様子

一年生との親睦会

前期の講義も次々に終了し、前期定期試験を控えた七月一五日、「学生と教員の交流と親睦をはかり、初めての前期試験や後期の学習に向けて鋭気を養う」ことを目的として、一年生（七期生）との親睦会を実施した。

大学での初めての試験が近づき、緊張と不安を隠しきれない一年生であったが、同級生や教員たちと食事をしながら会話が進むにつれて、笑顔となり、教室内に笑い声が広がっていった。

一時間という短い時間であったが、学生たちは、日頃接する機会の少ない教員とも会話ができ、新たな発見や学びにつながる有意義な時間となり、今後の定期試験などの学校生活に意欲的に取り組むきっかけになった親睦会であった。

（教授　下條三和）

●会話が弾んだ親睦会

第39回 キャンパスレポート 大川

九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会

七月五日、若手職員の教育・研究の推進を目的に、国際医療福祉大学・高邦会グループの「九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会」を開催した。会場の大川キャンパス二号館大講義室には、グループの臨床および教育施設からリハビリテーション職員や教員など三〇〇名近くが集まり、まず、研究会代表の福岡保健医療学部の辻貞俊学部長と、大会長である柳川リハビリテーション病院言語療法室の中原啓介室長による挨拶が行われ、第五回目となる大会がスタートした。

●原英夫先生による特別講演

●挨拶に立つ辻貞俊学部長

福岡保健医療学部理学療法学科の森田正治学科長、作業療法学科の原口健三学科長による教育講演のほか、佐賀大学神経内科の原英夫教授が「認知症の鑑別診断と治療～認知症疾患医療センターの現状と課題」をテーマに講演。課題解決には、認知症に対する理解と知識の普及・啓発と、かかりつけ医・関係機関との連携が重要であると解説した。また、柳川療育センターの花井敏男発達支援センター長が「障害に対する理解と対応～地域連携を目指して」をテーマに講演。脳性麻痺の早期発見・早期療養や発達障害増加の環境因などに言及し、医療・福祉・教育の連携の重要性を説いた。

その他、各施設からの研究発表に加え、森田学科長を座長として「高邦会における地域連携の取り組みと今後の展開」をテーマに、原先生、花井センター長、高邦会リハビリテーション部の室岡真弘室長と柳川療育センターの江藤安恵係長によるパネルディスカッションなども開催。質疑応答も活発に行われ、リハビリテーションに携わる若手職員にとって実り多き一日となった。

（九州地区広報室　神塚泰史）

●活発な意見交換が行われたパネルディスカッション

学生の声がきっかけの国際医療福祉大学・高邦会グループ一〇〇周年記念事業「おおかわ交流プラザ」完成

国際医療福祉大学・高邦会グループ一〇〇周年記念事業として建設を進めてきた「おおかわ交流プラザ」（地上九階建ての複合施設）が、この春、大川キャンパスそばに完成した。本キャンパスの学生アンケートで、「映画館がない」、「本格的な書店やカフェが少ない」といった声が多く寄せられたことをきっかけに着手したプロジェクトである。

まず、四月に、「認定こども園　高邦キッズハウス」と大川市からの委託事業「高邦病児保育室」、五月に、「有明クリニックおおかわ交流プラザ通所リハビリテーションセンター」がオープン。七月には、学生待望のブック＆カフェも完成し、一〇月には、いよいよ大型スクリーンを備えた四〇〇席規模の映画館「大川シネマホール」がオープンする。こうした施設をつくることで本学の学生たちが大川市に愛着を持ち、卒業後も地域の発展に貢献してもらいたいと願うもので、今後は、子どもからお年寄りまで、世代を超えて集い交流する場として、地域の魅力の向上や賑わいの創出をめざしていく。

各階の施設は、それぞれに医療・福祉・教育の総合グループである本グループの運営ならではの特長を有する。二階の「高邦キッズハウス」は、私立としては大川市初の認定こども園。幼稚園と保育園の特長を併せ持った施設で、大学や専門学校の運営で培った教育のノウハウを最大限に活用した教育・保育・地域の子育て支援を行う。三階は、在宅療養支援診療所「有明クリニック」。訪問診療を行い、通所リハビリテーション部門を併設している。一階のテナントとしてオープンした「積文館書店・ドトールコーヒーショップ」は、木工の町大川らしく木の質感とぬくもりを大切にした店舗デザインと、医療・福祉の専門書まで充実した豊富な書籍ラインナップが特長。大川木工のクラフトや文具・雑貨のコーナーもあり、オープンカフェは早くも学生やお年寄り、家族連れの憩いの場となっている。一〇月には映画館のオープンを記念し、映画まつりも開催予定。「おおかわ交流プラザ」の完成が福岡保健医療学部のある大川市をさらに魅力あるまちへと変えることは確かである。

（九州地区広報室　帆足リエ）

●大川キャンパスそばに完成した「おおかわ交流プラザ」

第35回
小田原キャンパスレポート

「オープンキャンパス」開催

八月一日と五日、小田原キャンパスのオープンキャンパスを開催した。

今年も連日の猛暑の中での開催となったが、高校生をはじめ保護者、学校・協会関係者など、多くの参加者に医療福祉の世界を体感していただいた。

今年のオープンキャンパスは、「大学紹介」に始まり、「二〇一六年度の入試概要説明」、有名予備校による「入試対策講座」、そして、日程別限定企画として「入試バーチャル体験&『英語』問題対策」、「AO／推薦入試対策講座」など、入試に関するさまざまな情報を提供した。各学科では、教員や多くの学生ボランティアが、「体験入学」に擬似体験コーナーを行ったり、学生生活の紹介や受験相談など、趣向を凝らしたイベントが催された。在学生は日頃の学習成果をわかりやすく丁寧に伝え、参加者も熱心に説明を聞きながら興味深そうに体験していた。

●学生と一緒に作業する参加者

●学生と談話する北島政樹学長

参加者からは、「『AO／推薦入試対策講座』に参加してお勧めの参考書を紹介してもらい、受験勉強の参考になった」、「『体験入学』に参加して、学科の勉強内容だけではなく、学校の雰囲気や学生の雰囲気がわかってよかった」、「親の立場として、学校側の誠意が感じられ、安心して子供を預けることができると感じた」など、うれしい感想が寄せられた。

続いて、夏休み中の八月一六日にもオープンキャンパスを開催する。

（入試広報係　今井清健）

ときめき国際学校

小田原市とオーストラリアのマンリー市は友好都市の関係であり、相互交流事業として「ときめき国際学校」を行っている。この事業のひとつとして、マンリー市の中・高校生が小田原市を訪れ、ホームステイをしながら小田原市の中・高校生と日本文化体験を通じて交流するプログラムがある。このプログラムの中に、小田原キャンパスを訪れ、本学の学生と交流する体験が含まれており、これは本学の学生にとっては、生の英語に触れる絶好の機会になっている。

今年は、七月一〇日に二五名が本学を訪れ、各学科の特徴を生かした体験をした。最初は緊張からか、なかなか思うように話せなかった本学の学生たちも、体験や教員のサポートを通して、中・高校生たちとの英会話を笑顔で楽しんでいたのが印象的だった。

●英語で医療福祉の案内をする学生たち

留学生交流会

六月二二日、一昨年に続き、第二回留学生交流会を開催した。黒澤和生副学部長の韓国語と中国語での挨拶のあと、留学生の出身地紹介、韓国語レッスン、中国のダンス披露、餃子の皮づくり体験と会食、ゲームなど、六名の留学生が何日も前から準備して趣向を凝らした。

前回終了後の「次回は日本人学生の友人も招待したい」という希望も実現。参加した日本人学生は、準備から進行、片づけまで留学生をフォローし、普段の学生生活の様子が垣間見られた。日本語講師の先生から「ここの大学は留学生をとても大事にしていますね」との言葉をいただいた。

交流会の翌日、留学生から「来年のためにできるだけ早く反省会をして、中心になる人を決めたい」と申し出があった。小田原キャンパスの留学生交流会が年々素晴らしいものになることを期待する。

（国際係　佐藤浩子）

●中国のダンス披露

●教員も餃子作りに挑戦!

第9回
大学院キャンパスレポート

本学院生が新宿区の地域防災訓練で救命講習を指導

七月一一日、本学大学院医療福祉学研究科ナースプラクティショナー（NP）養成分野の修士課程一年生と修了生の七名が、新宿区で開催された地域防災訓練で救命講習の指導を行った。

この救命講習指導は、グループ施設である新宿けやき園のある新宿区百人町町内会の依頼により実現したもので、西戸山中学校で中学生および地元町内会の方々に救命講習を指導した。二〇度を超える真夏日のなか、三〇〇名を超える参加者は、初めて触れる医学教育用高機能シミュレータを前に、真剣な面持ちで実技に取り組んだ。

当日、大学院生を指導した同分野の栗田康生准教授は、「大学の地域貢献の一環として、このような催しにはできるだけ協力していきたい。大学院生にとっても、医療人としての職業倫理を養ううえで非常に教育的効果が高いと思う」と振り返っていた。

●中学生を指導する栗田康生准教授

今後も、大学院ではこのような地域に根差した催しに積極的に協力することで、医療福祉の総合大学としての社会的要請に応えていきたいと考えている。

（大学院運営室　相澤有紀）

※NP養成分野は、平成二七年一〇月から特定行為に係る看護師を養成する指定研修機関として、厚生労働大臣から指定を受けることになり、「特定行為看護師養成分野」に名称が変更されます。

九月一二日（土）大学院オープンキャンパスを開催

入試シーズンを控え、本学大学院では九月一二日に、全研究科を対象としたオープンキャンパスを開催します。

当日は大学院の概要説明、入試に関する説明のほか、各分野・専攻・研究科の教員や在学生による個別進学相談会も実施します。大学院の雰囲気を実際に体験できるよい機会ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

オープンキャンパスは東京青山、大田原、小田原、福岡の各キャンパスで同時開催します。詳細、お申し込みは大学院ホームページをご確認ください。

第17回
塩谷看護専門学校キャンパスレポート

六月二五日、一年生四四名は施設見学として、国際医療福祉大学塩谷病院を訪れた。

看護学生として臨む施設見学は、「医療従事者として病院を知る」という重要な学習となる。「主となる実習病院を見学することで、看護学生としての自覚を高め、今後の実習を主体的に進める」、「病院施設における医療・看護の現状を知り、今後の実習に役立てる」ということが目的である。

四月に入学した一年生も数回の演習を重ね、白衣姿が少しずつさまになってきている。今回、施設見学にふさわしい身だしなみを学生同士で確認し合った結果、当日の朝もこの白衣に身を包んで集合したが、その表情からは緊張が明らかだった。

病院に移動し、初めに病院の概要や看護部についての説明を受けた。看護部長による看護部理念の話に、頷きながら聞き入っている学生が多かった。

その後は、グループにわかれて病院内を案内していただいた。入学後、机上での学習を重ねてきた中で、特に基礎看護学で学んだ「看護とは」、「環境とは」を想起しながら見学に臨んだ。事後レポートでも、「病院には看護師以外にも多くの職種が勤務していて、連携して医療・看護を提供していた」、「責任を持ち、情報共有しながら援助をしていた」、「四人部屋では、患者様のプライバシーへの配慮が重要だと思った」、「滅菌操作を見学した。授業で習ったところだったので、今の学習が重要であることを再認識した」、「看護師の声かけが患者様に安心感を与えていて、とても大切だと感じた」などの報告があった。看護を初めて学ぶ学生が、「看護とは何か」、「看護師とはどのような職業か」を学び、多くの学生が、初めて実際の「看護」に触れながら考える機会になった。

●初めての施設見学に臨んだ1年生

今が看護の入口だからこそ、今持っている優しい気持ちや思いやりを大切にしてほしいと思う。「看護基礎教育」では、この優しさや思いやりを育むことによって、それぞれが看護を学ぶ楽しさに気づき、卒業時には、生涯看護職として看護を行っていく礎となる看護観を獲得していることをめざして、教育、指導を行っていきたい。

一一月には、国際医療福祉大学病院での施設見学を予定している。

（教務部　二見亜紀）

国際関係特集

ミャンマー保健大臣が本学を来訪し、医療協力推進について協議

七月四日、ミャンマーのタン・アウン保健大臣が本学を訪問され、高木邦格理事長との間で、ミャンマーに対する医療協力の推進について協議した。「国際医療福祉大学医療協力研修センター」の開設や同センターにおける最新医療機器の導入、作業療法士・言語聴覚士育成のための研修などについて意見が交換され、リハビリテーション分野等における医療協力の合意書締結へ大きな一歩が刻まれた。

高木理事長がタン保健大臣にお会いするのは、昨年一一月のミャンマー訪問以来二度目。建て替えが予定されているミャンマー国立リハビリテーション病院内に、本学によるリハビリや先進医療に係る研修センターが開設されることが、ミャンマー保健省に承認されている。

協議に先立ち、タン保健大臣は、山王病院、山王バースセンター、山王メディカルセンターを視察。堤治病院長、山沖和秀副院長、菊池潔副院長が同行した。

今後のミャンマーと本学の医療協力の一層の推進が期待される。

（国際部　関口リンダ）

●和やかな雰囲気の中で山王病院を視察

国際医療福祉大学モンゴル国立医療科学大学との大学間協定を締結

七月一五日から一八日、高木邦格理事長および佐藤禎一学事顧問、赤居正美副大学院長などが、モンゴル唯一の国立医科大学であるモンゴル国立医療科学大学を訪問し、同大と大学間協定を締結した。

調印式は、今回のために特別にあつらえられたモンゴルの伝統的な移動式住居「ゲル」の中で執り行われた。ジャダンバ・ツォルモン元保健・スポーツ副大臣も参加されるなか、先方の代表であるアマルサイハン・バザル副学長が、「今回の協定を契機に、両大学の交流が深まることを祈っています。貴学から学ぶことは大変多いと期待しています」と挨拶されたのに対し、高木理事長は、「人材育成、研修、教育を通じてモンゴルの医療に少しでも貢献していきたいと考えています」と返礼した。

調印式後には、学生によるモンゴルの伝統楽器、馬頭琴の演奏が行われるなど、友好的な雰囲気に包まれた。

（総務企画部　服部是史）

●アマルサイハン副学長と握手する高木理事長

元培醫事科技大学研修生受入報告

六月二九日から八月二日の約五週間、本学の交流協定校の一つ元培醫事科技大学（台湾新竹市）の学生二名―施俞安さん（修士一年・医療マネジメント専攻）と黄竑銘さん（学部三年・医療マネジメント専攻）を研修生として、主に大田原キャンパスで受け入れた。

【研修】前半は国際医療福祉大学病院をはじめ、栃の実荘やマロニエ苑、にしなすの総合在宅ケアセンターなど、栃木地区の関連施設を中心に研修した。後半は医療福祉・マネジメント学科を中心に医療系・福祉系の先生方の特別講義を約二週間実施した。本学の「関連職種連携教育」の観点から看護、理学、作業、言語聴覚、視機能療法、放射線・情報科学、薬学の七学科において、それぞれ学科体験の機会も設けた。また、学生の希望により、今年度大田原キャンパスに開設した留学生日本語別科の先生方の協力により三日間の日本語レッスンと文化体験クラスを実施した。

【学生交流】ボランティアセンターで、日本人学生と外国人留学生が十数名集まり、白玉あんみつ作りなどを通じて交流した。週末には過年度台湾研修で元培を訪れた学生といっしょに市内を見学したり、福岡キャンパスを訪問したりと積極的に活動していた。

【最終プレゼンテーション】栃木地区研修の最終日の七月二九日、今回の研修で学んだことを医療福祉・マネジメント学科の先生方に向けて発表した。

【修了証授与式】プレゼンテーション修了後、学長室で、医療福祉・マネジメント学科の小林雅彦学科長、山本康弘副学科長同席のもと、北島政樹学長より修了証が授与され、糸山泰人副学長より記念品が贈られた。北島学長は「この経験を糧に、今後台湾と日本の架け橋になるとともに、世界で活躍できる人材になってください」との言葉をかけた。「将来のプランは」という質問に対し、施さんは、「修士論文の研究テーマを決めたい」、黄さんは「帰国後、半年間の実習期間に入るが、今回の研修で電子カルテに興味を持ったのでもっと勉強したい」とそれぞれ語った。

元培醫事科技大学とは二〇〇六年に交流協定を締結して以来、正規科目「海外保健福祉事情」の研修先として毎年学生を派遣し（二〇一五年度は五九名）、元培醫事科技大学からは過去四年間にわたり、後期の半年間、二～三名の学生を視機能療法学科で科目等履修生として受け入れるなど、積極的な交流を続けている。今後、両校の学生や教職員の交流がさらに深まることが期待される。

（大田原キャンパス国際室　藤原志保）

●修了証授与式の施さん（左）と黄さん（右）

成田キャンパス開設決定

設置認可申請中だった成田看護学部と成田保健医療学部の設置が認可され、文部科学省のホームページで公表されている。これにより、「成田看護学部・成田保健医療学部」は計画通り二〇一六年四月、国際都市「成田」に開設が決定した。

成田の持つ立地特性を生かし、「グローバルな視点を持った医療福祉専門職の育成」をめざす新設キャンパスでは、一一月半ばの完成・引渡しに向けて建設工事が順調に進捗している。校舎棟と体育館棟は、外観上ほぼ完成し、夏休み明けには足場が取れる予定である。地上九階建ての新校舎は既に公津の杜（こうづのもり）駅前の新たなシンボルとなっている。

七月四日に開催した成田メルキュールホテルでの「成田キャンパス説明会」では、約二四〇名の来場者を迎え、北島政樹学長による主催者挨拶・大学紹介、杉原素子成田保健医療学部学部長（予定）による成田キャンパス概要説明、本学大学院の和田秀樹教授による特別講演を行った。併行開催した進学相談会では、これまでの成田関連の相談会では最多の九〇組一四五名が訪れ、教職員から説明を受け熱心に耳を傾けていた。

また、同日開催の「キャンパス見学バスツアー」（校舎外観および公津の杜周辺環境を見学）では想定を大幅に上回る約一七〇名の申込があり、急遽バスを増便して対応した。成田事務所の職員が添乗し案内・説明を行うなかで、参加者からは、校舎の立地を実際に確認し、キャンパスと駅、また商業施設が至近という利便性を歓迎する声が多く聞かれた。

成田開設準備室の職員全員で、今後も新しいキャンパスの一ページを開くための準備に邁進していく。

（開設準備室　綿貫尚子）

●成田新キャンパス学部棟完成予想図

●バスを増便したキャンパスツアー

●個別相談会には成田キャンパス志望の高校生が多数相談に訪れた

●留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第3回

●クーロワ ナズグリさん　キルギス出身
博士課程 保健医療学専攻三年

キルギスは中国の西にある中央アジアの国で、面積は日本の約半分、人口は日本の二〇分の一の約五六〇万人です。ソ連時代から日本文化が人気で、空手、柔道、剣道、合気道、居合道などの武道はもとより、宮崎駿のアニメ、黒澤明の映画、芥川龍之介や村上春樹の小説などはポピュラーなものとして国民の生活に入り込んでいます。私も合気道を習っていました。キルギスでなぜ日本文化が盛んなのか、私も子どもの頃から慣れ親しんでいたので、その理由を考えたことがありませんでした。

私の研究テーマは、「青少年の自殺予防」です。母国のビシュケク人文大学を卒業して、東京国際大学の修士課程で社会学を学んだ後、本学の博士課程に進み、最初に髙橋紘士先生、今は水巻中正先生の指導を受けています。キルギスの青少年の自殺者数は、統計を見ると、最近になって増加しているように見えます。しかし、旧ソ連時代には、自殺はブルジョアのすることとされ、ずっと精神病として扱われてきたので、今もそのような考えが強いです。キルギスでは、貧困は学校でのいじめの原因の一つです。

自殺防止対策のために、電話相談窓口を作りたいと考えていますが、いずれにせよ、学校と両親のコラボレーションなしには解決しない問題であることは間違いありません。筑波大学の高橋祥友先生（精神科医）がこの分野で多くの著書を発表されているので、興味のある人はぜひ調べてみてください。

日本の学生のみなさんには、外国に行って、他の文化に触れることをお勧めします。他の文化を知らないと、日本のよさがわかりません。他の文化を知ることによって日本のことが納得できるのです。

私が感じている日本のよいところは、「安全」であるということです。また、「バリアフリー」が進んでいることも素晴らしいと思います。キルギスでは福祉用具を国内で生産しておらず、多くを中国から輸入しています。最近はJICAのボランティアは目が見えない人にマッサージを教えていますが、残念ながら、個々の要望に細かく応えることはできていません。

反対に、日本人を見ていて不思議なのは、電車で席を必要としている人に席を譲らない場面をたびたび目にすることです。キルギスでは絶対にあり得ないことで、これは家庭のしつけが徹底しているからです。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
奨学生認証式

五月二八日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社本社で、鈴木久仁社長、真鍋洋取締役副社長執行役員、金杉恭三取締役専務執行役員、菅明子広報部長、本学の高木邦格理事長、北島政樹学長、佐藤禎一学事顧問、武井徳司専務理事、小林雅彦学生部長、小林一也事務部長などが列席し、奨学生認証式が行われた。

この制度は、平成九年に同社の前身・同和火災海上保険の創立一〇〇周年記念事業の一環で、教育を通じた社会貢献事業として創設され、保健・医療・福祉の有為な専門職を育成する本学の学生に奨学金が支給されている。一九年目を迎え、今年選ばれた一〇名を加え、延べ一六七名に奨学金が支給され、すでに一三〇名以上が医療福祉現場で活躍している。

鈴木社長から、「どんなに医療技術が進歩しても、結局は人間が大事であること、そして、周りの人に支えられているという感謝の気持ち、人の役に立ちたいという初心を忘れずに」とエールが送られた。

高木理事長は、深く謝辞を述べる一方、学生には、「名誉ある奨学生との自覚を持って勉学に励み、社会のために役立ってください」と激励した。

（東京事務所　総務企画部）

●前列に並んだ10名の奨学生

■小田原保健医療学部（七月一五日実施）
看護学科
四年　加瀬千恵、三年　神田具子、二年　鈴木かすみ
理学療法学科
四年　大松峻也、三年　石村祐基、二年　出岡有希
作業療法学科
四年　長嶋早紀、三年　土肥咲喜子、二年　澤田幸輝

■福岡看護学部（七月一一日実施）
看護学科
四年　栗原哲平、三年　太島美咲、二年　繁永澤奈

■福岡保健医療学部（六月二〇日実施）
理学療法学科
四年　速水慶太、三年　島雄南、二年　新郷怜
作業療法学科
四年　小柳ちひろ、三年　河野まどか、二年　佐藤里佳
言語聴覚学科
四年　井上美里、三年　吉岡杏奈、二年　中島くる実
医学検査学科
三年　渡邉愛梨、二年　西之園栞

（学生課　松本典子）

平成二七年度
国際医療福祉大学
年間成績優秀賞表彰式

平成二七年度年間成績優秀賞の表彰式が各キャンパスで行われ、受賞者に表彰状が授与された。副賞として、授業料の最大五〇％の奨学金が授与される。

■保健医療学部（六月一〇日実施）
看護学科
四年　小田優美、三年　山本和幸、二年　浅野里実
理学療法学科
四年　田鹿謙太郎、三年　遊佐彩野、二年　佐藤佳奈
作業療法学科
四年　佐々木笙子、三年　鈴木史織、二年　大島沙耶
言語聴覚学科
四年　高柳美里、三年　宇井里実、二年　関口敦子
視機能療法学科
四年　卯柳智美、三年　高津戸佑騎、二年　能登山桃子
放射線・情報科学科
四年　茨木裕美、三年　山名千尋、二年　崔見涼加

■医療福祉学部（六月一〇日実施）
医療福祉・マネジメント学科
四年　鈴木愛実、三年　髙橋美里、二年　大内康平

■薬学部（六月一〇日実施）
薬学科
六年　古賀香央里、五年　渡邉志穂、四年　君島秀尚、三年　八木澤昂大、二年　向井崇人

平成二七年度
IUHW奨学金授与式のご報告

七月二九日、山王病院の山王ホールにて、IUHW奨学金授与式が執り行われた。式には、駐日ミャンマー連邦共和国大使館のカイマー・ウィン・ジン・タン二等書記官、アジア婦人友好会の中曽根真理子副会長、潮田正子副会長らにご臨席賜った。

IUHW奨学金制度は、医療福祉分野の人材育成に寄与することを目的に、在学中の学費、教材費、交通費、住居費、生活費をフルサポートする制度。これまで延べ二五名に授与された。

奨学生から、「いただいた奨学金に感謝。日本で学んだことを持ち帰り、母国の医療福祉の発展に貢献したい」と抱負が語られ、天野隆弘大学院長より奨学金証明書が授与された。中曽根副会長のほか、ミャンマー大使館書記官から謝辞があり、人材育成の重要性が確認された。

今年度の奨学生
●キン・モー・モー・トゥエさん（ミャンマー・女性）
医療福祉学研究科博士課程
保健医療学専攻　放射線・情報科学分野
●タンダ・エイさん（ミャンマー・女性）
医療福祉学研究科博士課程
保健医療学専攻　理学療法学分野
●ス・ヌエ・サンさん（ミャンマー・女性）
薬学研究科博士課程
医療・生命薬学専攻
●ピョー・ピョー・カインさん（ミャンマー・女性）
医療福祉学研究科修士課程
保健医療学専攻　助産学分野
●トゥ・トー・ルウィンさん（ミャンマー・女性）
医療福祉学研究科修士課程
保健医療学専攻　作業療法学分野

●授与式の参加者全員による記念撮影

（東京事務所　国際部）

山王病院新棟竣工祝賀会
国際医療福祉大学
二〇周年記念祝賀会を開催

四月一三日、ホテルニューオータニにて、「山王バースセンター」と、NICU・ICUを整備した山王病院新棟の竣工、および、日本初の医療福祉の総合大学として今年で開学二〇周年を迎えたことを記念して、記念祝賀会を開催した。

来賓挨拶は、開学時から役員を務められているアメリカンファミリー生命保険会社の創設者・大竹美喜様、乾杯のご発声は、毎年多額の奨学金をいただいている、あいおいニッセイ同和損保株式会社の特別顧問・岡崎真雄様よりいただいた。

高木邦格理事長は、「大学の臨床医学研究センターでもある山王病院は、今後も質の高い医療と温かいサービスをご提供し、患者様に安心してご利用いただける医療機関をめざします。来春開設予定の成田キャンパスでも、優秀な医療福祉専門職の人材育成に教職員一丸となって尽力してまいります」と挨拶した。

鏡開きやコンサートなどがあり、盛会のうちに終了した。

（東京事務所　総務企画部　服部是史）

●多くの来賓にご参加いただいた鏡開き

平成二六年度
大学機関別認証評価結果について

すべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める期間（七年以内）ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務づけられている。（学校教育法第一〇九条第二項）

本学では、平成一九年度に引き続き、平成二六年度に公益財団法人日本高等教育評価機構（以下、評価機構）による評価を受け、平成二七年三月一〇日付で評価機構が定める「使命・目的等」「学修と教授」「経営・管理と財務」「自己点検・評価」の四つの基準からなる大学評価基準に適合していると認定された。

今回の自己点検評価および評価結果を受け、本学の建学の精神、基本理念・教育理念を礎に、学生の教育研究の向上に向け、さらなる努力を続けてまいります。

（大田原キャンパス　総務課　豊島功）

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
II
UNIVERSITY
2014

●評価機構の認定マーク

大田原キャンパス　看護学科
国際医療福祉大学IPA-GP
チームの活動について

IPA-GP（Inter Professional Approach to Gastrectmized Patients）は、さまざまな専門職の連携によって、胃を切除した患者さんの社会復帰を支援するためのチームであり、ウェブサイトを開設して、情報提供を行っている。

「WEB版サバイバーシップ」のコーナーでは、同じ悩みや経験を持つ仲間の体験談を紹介し、患者さん同士の支え合いの場を支援し、「情報ギャラリー」では、胃の手術をした方々の「食事」、「ストレス」、「仕事復帰に向けた対処」、「症状への対処」などの困りごとについて、医師、看護師、管理栄養士、理学療法士など一〇人で検討した情報を提供している。

また、「患者さんとともに社会復帰の支援策を考える」、「胃切除術後における食事と運動の多職種連携によるサポート」をテーマに患者さんを交えたワークショップを開催し、この映像をYou Tube形式で掲載している。

今後は、国際的な観点から英語版での情報提供や普及のためのアプリの開発に取り組んでいく。

（看護学科　教授　糸井裕子）

●http://www.iuhw.ac.jp/ipagp/index.html

大田原キャンパス　看護学科
「保護者のための就職活動講座」開催

五月二〇日、「保護者のための就活講座二〇一五」を大田原キャンパスで開催し、看護学科三・四年生八名と保護者五六名が参加した。

看護師の教育課程は多岐にわたるが、本学学生が大卒看護師として適切なキャリア選択ができるよう、保護者にも就活支援に参加していただくことを目的に企画し、今年で三年目となる。

午前の部では、坪倉繁美看護学科長による開会挨拶のあと、村松由紀教授が「これからの大卒看護師の就活のすゝめ」と題し、看護師の就活概況を講演した。関連病院から三名の講師を招き、職場環境や教育体制、就活を含めた職業生活での体験談をお話しいただいた。

午後の部は、栃木地区の三施設を見学した。保護者からは、「立派な施設や丁寧な職員の対応を目の当たりにして感激した」、「気持ちよく働ける病院だと感じた」との感想をいただき、盛況だった。

（看護学科　講師　小西美樹）

大田原キャンパス　視機能療法学科

科研費基盤(B)研究成果報告会

三月二一日、日本学術振興会基盤研究(B)「多職種連携による重症心身障害児・者の客観的視機能評価法の確立と普及」の成果報告会を東京青山キャンパスで開催し、学外一五施設の療育関係者三三名が参加した。本研究は眼科医・視能訓練士・作業療法士・小児科医・言語聴覚士・工学系研究者がチームを組み、重症心身障害児(者)の療育に視機能を積極的かつ有効に活用するための評価法開発に取り組んだものである。

代表者の新井田孝裕教授の概要説明に続き、各専門職が、一般民生技術を活用した瞼裂幅の評価、慣用的検査手技を組み合わせた定性的評価、視線解析を用いた客観的評価を紹介し、療育に携わる作業療法士がこれらの評価法の実践事例を説明した。チーム医療の必要性が認識されるなか、研究段階から各職種が連携し、対象者や支援者のニーズに添った評価・支援方法を開発し広めていくことの必要性を再認識した。

今年度からは対象を発達障害児に広げ、新たな基盤研究(B)のもとで研究を発展させていく。

(視機能療法学科　准教授　小町祐子)

●研究段階からのチーム医療を実践している研究チーム

大田原キャンパス　薬学科

「実務実習宣誓式」開催

四月二三日、今年度の「実務実習宣誓式」を開催した。この式は、病院ならびに薬局での実務実習が始まる五年生が、その意義を理解し、本学の学生としての誇りを胸に、医療人、社会人としての役割と責任を自覚して、実務実習に臨む決意を固めることを目的としている。

武田弘志学部長の式辞に続き、五年生一六〇人が本学のマークが入った白衣に初めて袖を通した。緊張感の漂うなか、中川博揮さんと仲本明希さんが代表して宣誓を読み上げた。続いて、北島政樹学長の激励、百瀬泰行教授(実施責任者)の閉会の辞をもって終了した。

この式には毎年四年生が全員出席する。先輩の姿に一年後の自分の姿をだぶらせて、共用試験に向けたこの一年間の勉学に臨む。

(大田原キャンパス　広報室　金井雅之)

●「薬剤師として必要な知識、技能、態度を習得し、医療人としての第一歩を踏み出したい」と力強く宣誓を読み上げた。

大田原キャンパス　医療福祉・マネジメント学科

「医療福祉学部フォーラム」開催

五月二七日、宇都宮東武ホテルグランデで医療福祉学部フォーラム「医療福祉の仕事と職場の魅力」を開催した。丸山仁司副学長の挨拶で始まり、女優で介護福祉士の北原佐和子さんによる特別講演「介護で出会ったすてきな人々〜わたしが実践する〝魔法の声かけ〟」では、現場での実体験に基づく話に聴衆が魅了された。小林雅彦学科長の学科紹介では、熱心にメモを取る高校生の姿が見られた。

第二部は現場で活躍中の本学部卒業生を迎えたパネルディスカッション。山本康弘副学科長をコーディネーターに、特別養護老人ホーム栃の実荘の森嶋美幸さん、大田原市社会福祉協議会の小滝典さん、青木病院の島田祐子さん、国際医療福祉大学病院の相馬優未さん、㈱ソフトウェア・サービスの佐藤雄基さんが医療福祉の仕事の魅力について討議した。

最後は本学部卒業生でシンガーソングライターのえりのあさんのトークライブ。歌やダンスの合間に学生時代の思い出話も飛び出し、盛況のうちに幕を閉じた。

(医療福祉・マネジメント学科　講師　酒井健)

●パネルディスカッションでコメントする北原佐和子さん。

大田原キャンパス　ボランティアセンター

「宮城県岩沼市植樹祭」に参加

五月三〇日、宮城県岩沼市で開催された「第三回千年希望の丘植樹祭二〇一五」に、本学から学生五〇名、卒業生一名、教職員八名の計五九名が参加した。昨年に続き二回目の参加となる。

津波により甚大な被害を受けた岩沼市の沿岸では、津波除けとして「千年希望の丘」の整備が進められている。今回の植樹祭は、防潮堤としての森を育てるプロジェクトの一つで、全国から約六千名のボランティアが参加し、約五万本の苗木を植樹した。

作業は約二時間。参加者は、自分たちの活動が、人々の生活や未来を守れると思うと、力になれて嬉しいと話した。

四年が経ち、震災の記憶が風化されつつある今、帰り際には被災当時の姿を留めた家屋を見学。今回が初めての被災地訪問という学生も多く、まだ復興したとは言えない状況を見て、さまざまな形で被災地への支援や関わりを続けていく必要性を感じているようだった。

(ボランティアセンター　中里愛)

●今年の3月に卒業した卒業生も岩手県から駆けつけた

大田原キャンパス　総合教育科目

「郷土論〜栃木学〜」で津久井富雄大田原市長が講義

五月二八日、「郷土論 〜栃木学〜」の最終回で、津久井富雄大田原市長が講義を行った。

本科目は、栃木県(特に県北地域)の歴史と文化を理解するとともに、産業・観光資源などの魅力にもスポットを当て、学生が県北地域で医療福祉の中核を担う本学で学ぶ意義を認識するため、昨年度から開講されている。

毎回ゲスト講師が登壇し、津久井市長は昨年に続き最終講義に登壇。「国際医療福祉大学の学生に求めること 〜大田原市の街おこしとの関連から」のタイトルのもと、副題に、「地方自治と私 〜仕事は命がけだから楽しい〜」を掲げ、市長をめざした理由、市長として行ってきたこと、今後の地方自治と私の夢、本学の学生に求めることを、優しく、熱く語った。

終了後の学生アンケートでは、「夢を実現できるよう志を高く持ちたい」、「将来医療従事者になる者として、的確な判断や指示のもと、迅速に対処できるように勉学に励みたい」など、市長の志に感銘を受けた学生の言葉が目立った。

(大田原キャンパス　教務課　小林季幸)

●熱い語り口に多くの学生が感銘を受けた。

大田原キャンパス　総合教育科目

「英語医療通訳入門」開講

今年の四月から、「英語医療通訳入門」が開講した。目的は、日本語を話せない外国人患者に英語で対応できる医療人を育成することで、現在、一年生一五名が参加している。

授業では循環器科、呼吸器科、消化器科など診療科ごとに、それぞれ特に関連のある臓器、身体部位の名称と働き、主な病名と症状について学習している。

ここで不可欠なのがロールプレイによる通訳の訓練である。学生が三人一組で医師や看護師、外国人患者、医療通訳者の役を演じることが多いが、六月二九日には、那須塩原市のアジア学院から五名のゲスト(アメリカ、ガーナ、インド、フィリピン出身)を迎えてロールプレイを行った。最初は緊張気味だった学生たちも、次第に自分から話しかけ、医療通訳の訓練に加えて、英会話を楽しむ姿が印象的だった。終了後には、「自分の英語が通じて嬉しい」、「医療通訳をもっと勉強したい」などのコメントが寄せられた。今後も、外国人との交流を通して医療通訳の技術を磨く機会を提供していきたい。

(語学教育部　三浦美恵子)

●ゲストをまじえたロールプレイに取り組む学生たち

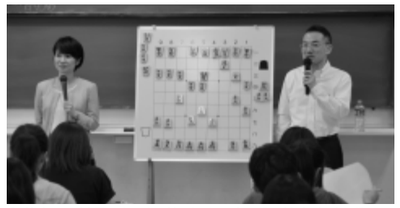
大田原キャンパス　総合教育科目

「将棋で養う社会力」開講

五月一日、「将棋で養う社会力」の第四回授業に、今年度も公益社団法人日本将棋連盟の島朗九段と鈴木環那女流二段にお越しいただいた。将棋技術講座(駒の価値、詰みの考え方など)、リレー将棋解説など、学生の興味を持続させつつご指導いただくなか、「ベストを尽くして負けることで成長し将棋が上達する。だから、敗北からしっかり学んでほしい」とのことばが印象に残った。学生諸君の人生の糧にもなると思う。

こうした大学での将棋講座は、一昨年度本学が始めて以来増え、現在は東京大学、大東文化大学、首都大学東京、國學院大學でも開講されている。社会力のみならず集中力、解析力、決断力を養う良い手段であると認識されている。本学では日本将棋連盟公認の将棋普及指導員資格を有する教員が指導しているが、本学以外ではプロ棋士が指導にあたっている。本学でもプロ棋士の指導を仰ぐ機会があることは悦ばしい。

(基礎医学研究センター　教授　北村義浩)



●学生との対局で解説に熱がこもる島9段と鈴木女流2段

二〇一四年度

卒業生国家試験報告

三月三〇日までに、すべての職種の国家試験の合格発表が行われ、二〇一四年度卒業生の国家試験の結果が出揃った。合格率一〇〇%を達成したのは次のとおり。

- 看護師(小田原保健医療学部)
- 保健師(保健医療学部)
- 保健師(小田原保健医療学部)
- 保健師(福岡看護学部)
- 視能訓練士(保健医療学部)
- 理学療法士(福岡保健医療学部)

このように、保健師は、三キャンパスの看護学科がいずれも合格率一〇〇%を達成した。特に小田原保健医療学部看護学科は、三年連続で看護師の合格率一〇〇%を達成した。

惜しくも一〇〇%を達成できなかったその他の資格でも、全国合格率を上回る高い合格率を維持する結果となった。

本学は「国家試験全員合格」をめざしており、最後まであきらめずに国家試験対策に取り組んでいる学生を、多くの教職員がきめ細かいサポート体制でフォローしている。

すでに今年度の国家試験対策は始まっており、引き続き教職員一丸となって学生をバックアップしていく。

(大田原キャンパス　教務課)

看護特集

三年次から本格的に学外実習が始まり、国家試験対策や資格取得後の進路について意識が高まります。
本特集では、まず当グループで活躍する二人の先輩看護師にスポットを当て、働きながら学んで専門性を高め、仕事上の問題を乗り越えていった姿を紹介します。また、年一回開催される看護研究会の取り組みについてもお伝えします。

認定看護師

日本看護協会による認定制度で、五年ごとに更新する。特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて高い水準の看護を実践できる看護師。

国際医療福祉大学熱海病院
看護部 ICU副主任
集中ケア認定看護師
中野健太郎

患者様・ご家族の代弁者として

国際医療福祉大学 保健医療学部 看護学科卒業（平成一九年）

就職先に国際医療福祉大学熱海病院を選んだのは、大好きな海が見えるからという単純な理由からだ。看護はポジティブな感情ばかりではいられない仕事。海から昇る朝日とそこに浮かぶ初島に何度も元気をもらった。

ICU（集中治療室）に配属された。人工呼吸器を着けて言葉を出せない、意識障害で辛さを言葉にできない、意思表示ができないといった患者様を多く看てきて、そうした患者様の思いにどう応えればいいかと悩む日々が続いた。その答えを見つけたくて、認定看護師をめざした。

集中ケア認定看護師になり、呼吸ケア・呼吸療法について、院内を横断的に関わることができるようになった。仕事が広がり、他職種や患者様、ご家族に深く携わるうちに、患者様やご家族の代弁者になることが、私なりの寄り添い方なのかもしれないと感じるようになった。

そして今日も、海の見える職場で看護に取り組んでいる。看護は奥深く、悩む場面が多いが、その分やりがいも大きい。一緒に考え、取り組んでいきましょう。

特定行為に係る看護師

医師の包括的指示のもと、診療や検査、処置など特定の医行為ができると認められる看護師。本年一〇月から、これに係る法律が公布され、正式の身分になる。

※ここでは、NP教育大学院協議会が認める大学院をすでに卒業した者をナースプラクティショナー（NP）としている。

国際医療福祉大学三田病院
看護部 NP
酒井則子

看護師と医師、両方の視点を持つナースプラクティショナー

国際医療福祉大学大学院ナースプラクティショナー養成分野修了

本学大学院ナースプラクティショナー（NP）養成分野を卒業し、NP教育大学院協議会の認定資格を得て、「NP」として国際医療福祉大学三田病院で働き始めて三年目。当院には、日本に約二〇〇名しかいないNPが三名も活動している。私がNPをめざしたきっかけをお話ししたい。

ある時、腹痛を訴える患者様に医師の指示どおり鎮痛薬を投与したが、痛みは改善しなかった。医師は手術中ですぐには対応できず、患者様は痛みに耐えるしかない。身体をさすったり、声をかけたりすることしかできない自分に無力さを感じた。

また、人工呼吸器を外せる状態なのに医師が多忙のため、外すタイミングが遅れることも少なくなかった。看護師がもっと積極的に介入できたら患者様はもっと早く楽になれるのにとの強い思いから、NPをめざした。

NPになり、外来や手術などで医師が不在の間、患者様の管理の一端を任されている。検査をオーダーし結果を評価、必要ならエコーを実施することもある。それにより、患者様の異常を早期に発見し、早期治療につながった経験もある。また、看護師と医師の両方の視点を持つことから、以前より深く患者様を全人的に看（診）ることができるので、患者様の生活を守る意識が一層高まった。経験を重ねるごとに仕事が楽しく、とてもやりがいを感じている。

学び続けることで、患者様のためにできることがさらに広がります。学生の皆さんもNP（特定行為に係る看護師）をめざし、将来私たちと一緒に頑張ってみませんか。

看護研究会

平成一八年二月に関連病院看護組織の連携を深め、看護の質の向上を図ることを目的に始まった。現在は、看護学科の教員、学生も参加し、幅広く奥深い会に成長。毎年二月の会には学生も参加できる。

国際医療福祉大学三田病院
看護部長
野宮雅子

国際医療福祉大学グループにおける大学と臨床の連携

四附属病院を含めた関東の関連七施設と二看護学科、看護専門学校では、教育現場と臨床の連携を目的に、二〇〇六年から「看護研究会」を開催している。記念すべき第一〇回を迎えた昨年度は、学科長、看護部長をはじめ、教員、看護職員、看護学生など一七〇名以上が会場の三田病院に参集した。

来賓の北島政樹学長のご挨拶で始まり、続く武藤正樹大学院教授の、「超高齢社会における医療政策と多様化する看護職の役割」についての講演は、看護職としてさらに奮闘する動機づけとなった。

午後は看護研究発表。臨床から七題、教育現場から三題の発表があり、活発な意見交換を行った。一〇年間続けてきたことにより、年々研究の質が高まりつつある。さらに教育と臨床が交流・連携することにより、グループ全体の看護の質向上に貢献してきたと確信している。

関連施設では充実した研修制度を整え、今年度は最多の本学卒業生を迎えることができた。最高の「チーム医療・チームケア」をともに創造していける、本学の卒業生をお待ちしています。

施設インフォメーション／国際医療福祉大学塩谷病院／国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院

附属病院 国際医療福祉大学塩谷病院

平成二七年度 第一回市民公開講座を開催

六月六日、塩谷看護専門学校講堂にて、福井康之病院長による第一回市民公開講座「腰が痛くなったら？～腰痛への対処法～」を開催した。当日は定員を上回る二二八名が来場し、熱心に耳を傾けていた。スライドや手術映像を交えた講演はわかりやすいと好評で、質疑応答の時間には多数の質問があった。

また、今回の市民公開講座は申し込み多数だったため、六月二四日に塩谷病院大会議室にて追加講演を開催した。追加講演にも一一八名が参加し、こちらも大盛況であった。

当院では、今年度残り七回の市民公開講座を開催する予定である。今後も地域の皆様へ向け、健康に役立つ情報を提供していく。

●講演を行う福井病院長

（総務課　國分さやか）

附属病院 国際医療福祉大学病院

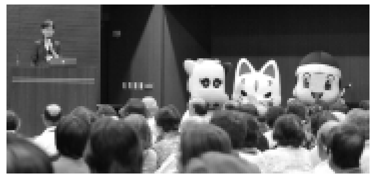
〝生活習慣病をもっと知る〟をテーマに「健康フェア2015」を開催

六月七日、当院で生活習慣病をテーマにした「健康フェア2015」を開催し、二八〇名を超える来場者を迎えた。

開会式では、桃井眞里子病院長による挨拶と予防医学センターの紹介に続き、那須塩原市の阿久津憲二市長、那須郡市医師会の江部寛会長から挨拶をいただいた。

当院医師によるミニセミナーのほか、昨年好評だった体験型イベントには、新たに自己血糖測定、アルコールパッチテストなどが加わった。昼のお楽しみコーナーでは、ボランティアによるフラダンスショーや学生サークルによるジャズやハンドベルの演奏があり、ゆるキャラ登場では、那須塩原市のみるひぃ、大田原市の与一くんに、今年は那須町のきゅーびーが加わった。

「体験型イベントがよかった。年に二～三回開催してほしい」、「ミニセミナーがわかりやすく、参考になった」といった声が聞かれ、大盛況のうちに終了した。



●大勢の来場者が詰めかけた開会式

（総務企画課　小室秀明）

附属病院 国際医療福祉大学三田病院

第二回連携協議会を開催

六月三〇日、三田ホールにて、「第二回 国際医療福祉大学三田病院 連携協議会」を開催した。

地域医療機関の先生方と速やかに病診連携へとつなげるべく、当院への理解と信頼を深めることを目的に、今回は歯科口腔外科・頭頸部腫瘍センターとの合同で行った。港区芝歯科医師会・港区麻布赤坂歯科医師会会長をはじめ総勢九六名の方々にご参加いただいた。

第一部の講演会では、歯科口腔外科部長・矢郷香准教授、同副部長・川本義明講師、頭頸部腫瘍センター・増淵達夫講師が、それぞれの立場における口腔治療の取り組みについて講演した。

第二部は場所をレストランオーブに移し、意見交換会が行われた。一時間という短い時間だったが、オーブの料理が華やかさを演出し、和やかな雰囲気のうちに進行した。地域医療機関の先生方と、より一層良好な関係を築く有益な時間となった。

●悪天候にもかかわらず、講演会は満席となった

（地域医療連携部　音丸秋子）

附属病院 国際医療福祉大学熱海病院

メディカルラリー優勝

世界規模で救急救命の知識や技術を競う「メディカルラリー」が五月三一日に千葉県で開催され、熱海病院職員（救急科医師、研修医、看護師）と熱海市消防本部の救急救命士からなる「チーム熱海」が、初出場で優勝する快挙を成し遂げた。

熱海市は人口約四万人だが、救急出動回数は人口一〇万人規模の都市に匹敵するといわれている。メンバーは、「救急救命の現場を知り、病院前救護処置から院内での救命処置までの連携における〝チーム医療〟のあり方を体験する」ことを目的に参加した。

短い準備期間だったが、積極的に意見を言い合える雰囲気が活発なコミュニケーションを生み、優勝につながった。

救急隊と病院のつながりを日々意識し、今後の救急医療や〝チーム医療〟の向上につなげることをさらに期待して、次の大会にも臨んでもらいたい。

●初参加で優勝した「チーム熱海」のメンバー

（総務課　堀内希望）

同窓会通信

IUHW Alumni Association Report

Vol.8

九州支部会総会のご案内

一〇月一〇日、大川キャンパスで、同窓会九州支部会総会を開催します。

主な議題は次年度からの新役員の承認で、終了後は懇親会を開催します。

参加費は無料。大学祭も行われており、同窓会から模擬店を出店します。

参加申し込みはタイトルを「総会申込み」とし、本文に氏名・学籍番号を記入し、左記のアドレスへ送ってください。

同窓会九州支部事務局：
dousoukai@iuhw.ac.jp

九州支部看護学科分科会研修会

一一月二八日、九州支部看護分科会をAQUA博多で開催します。現況報告会を二～四名程度で行い、また日頃の悩みや不安点を話し合える場としてプリセプターと後輩（プリセプティ）との相談会や多重課題についてグループワークを実施する予定です。

今年で三回目となり、前回より濃い内容で参加者に楽しんでいただくように、盛り上げていきたいと思います。お申込みは、すでに福岡看護卒業生に郵送でお知らせしていますので、ご確認ください。

九州支部理学療法学科分科会について

一〇月一〇日、大川キャンパスで、理学療法学科同窓会を開催します。これまでの研修会とは違う方向で卒業生が集まる場を作ることが目的で、当日は大学祭が行われているほか、同窓会役員による一〇周年企画プロジェクトなども企画しています。参加費は無料。（飲み物、軽食を準備します）

申し込みは、往復はがきを郵送しておりますので、返信用はがきに必要事項を明記のうえ、出欠をお知らせください。（欠席の場合でも、氏名、住所、勤務先を明記のうえご返送ください）

※往復はがきが郵送されていない場合はメールでお申し込みください。件名を「福岡保健医療学部PT学科同窓会」とし、本文に、①氏名、②卒業期、③住所、④勤務先　を明記してください。

okwpt_dosokai@yahoo.co.jp

申し込みの締め切りは九月二六日

九州支部言語聴覚学科分科会研修会開催の報告

八月二二日、言語聴覚学科分科会研修会を大川キャンパスで開催しました。

講演会は佐賀大学医学部付属病院の言語聴覚士・森本邦子先生に、「ガンリハビリテーション」という内容でお話しいただきました。

さらに、症例検討なども行い、有意義な研修会となりました。

同窓会幹事紹介

多田英生幹事
二〇〇九年度
小田原保健医療学部理学療法学科卒

私は現在、国際医療福祉大学熱海病院に勤務しており、職場には小田原キャンパスの後輩も多く、充実した日々を送っています。

卒業後数年間は同窓生と会う機会は多かったのですが、皆徐々に仕事が忙しくなり、中には、結婚や出産、海外留学をする人もいて、会うことが難しくなってきました。そこで、同窓会を活用したいと考え、今年の二月に「小田原保健医療学部　第一回　看護・理学・作業療法学科合同同窓会」を開催しました。

企画、運営、手配など前例のないなかでの準備は不安も大きく、開催の実現も危うくなる場面もありましたが、同窓会当日は、予想を大きく上回る数の卒業生が参加しました。「なにもない」ところから立ち上げるのは大変ですが、逆に「なんとでもできる」ということを今回の企画を通して感じました。これからも、同窓生や先生方とのつながりを強めていける企画を考えていきたいと思います。

●合同同窓会での多田幹事（前列中央）

平成二七年度　海外留学奨学生決定

今年度は三名の応募があり、厳正な書類選考と二度の面接を経て、福岡保健医療学部理学療法学科四期生の有家尚志さんが採択されました。

早期から適切な治療を受けることが可能になる理学療法士のダイレクトアクセスを学ぶため、先進的な取り組みが行われているイギリスへの留学を決意。コベントリー大学に一年間留学の予定です。三人目の海外留学奨学生となる有家さんを応援し、今後の活躍を同窓会広報ツールでご紹介していく予定です。

同窓会メールマガジン配信について

月に一回、同窓会・大学主催イベントの案内や大学学生会（学友会）からの情報を同窓会メールマガジンとして配信しています。卒業後もぜひ大学Ｇｍａｉｌをご利用ください。

※大学Ｇｍａｉｌのご利用方法については、同窓会ホームページをご覧ください。

★住所等が変更になった同窓生へ（お願い）

同窓会からの各種ご案内をお送りさせていただくために、住所・勤務先・氏名等の変更の際には、お手数ですが同窓会事務局までご報くください。

同窓会「マロニエ会」事務局
栃木県大田原市北金丸2600-1
国際医療福祉大学学生課内
TEL：0287-24-3055/FAX0287-24-3140
Mail：office.maronie@iuhw.ac.jp

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

2016年度 入学生募集
学内推薦入試・入学金免除・奨学金制度あり
（本学卒業生及び卒業見込者対象）

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス　大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。

②カリキュラム　多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。

③同時双方向遠隔授業　複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS **大学院オープンキャンパス開催 9/12（土）**

大学院の概要、入試説明や、各分野・専攻・研究科のご紹介、進学相談等が予定されています。進学をご検討されている方、大学院に興味を持たれている方であればどなたでもご参加いただけます。

詳細・お申し込みは大学院ホームページをご覧ください。
http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻
●看護学分野
●特定行為看護師養成分野（旧ナースプラクティショナー養成分野）
●助産学分野
●理学療法学分野
●作業療法学分野
●言語聴覚分野
●視機能療法学分野
●福祉支援工学分野
●リハビリテーション学分野
●放射線・情報科学分野
●生殖補助医療胚培養分野
●医療福祉教育・管理分野

医療福祉経営専攻
●医療経営管理分野
●診療情報アナリスト養成分野
●医療福祉国際協力学分野
●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
●医療福祉学分野
●医療福祉ジャーナリズム分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻
●看護学分野
●助産学分野
●理学療法学分野
●作業療法学分野
●言語聴覚分野
●視機能療法学分野
●福祉支援工学分野
●リハビリテーション学分野
●放射線・情報科学分野
●生殖補助医療胚培養分野
●医療福祉経営学分野
●診療情報管理・分析学分野
●医療福祉国際協力学分野
●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
●医療福祉学分野
●医療福祉ジャーナリズム分野
●医療福祉心理学分野

薬学研究科
博士課程（4年制）
医療・生命薬学専攻

薬科学研究科
修士課程
生命薬科学専攻
●生命薬学分野
●医療薬学分野

大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com 好評配信中
平成27年4月、「医療福祉eチャンネル」「VODライブラリー」がリニューアルしました。
Windows PC、Mac OS、スマートフォン、タブレット等で視聴可能になりました。

主な配信番組

●理学療法分野
リハ評価指標 温故知新
ー臨床力レベルアップー

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護

●医療・福祉・経営実務
社会保障の論点
保健医療福祉政策論

●受験講座
ケアマネジャー受験講座2015

●厚生労働省情報
障害保健福祉関係主管課長会議(3月6日開催)
※無料配信

●乃木坂スクール
発信力を磨いて福祉を変える・医療を変える

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IUHグループ職員・学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
文学論、教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講義、日本近現代史、宗教学、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、他

広報誌 IUHW 102 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4　☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室　☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

ⓒ国際医療福祉大学2015　Printed in Japan　禁無断転載・複写

1年生の新生活レポート ～私たちの第一歩！～

今回は1年生の新生活をレポートします。初めてのひとり暮らしとともに、大学生活をスタートさせて早くも3か月。それぞれのアパートを訪ねて、友だちのこと、勉強のこと、自慢のレシピなどを紹介してもらいました。これがまさに4年後に向けての第一歩。充実した大学生活につながっていくことを祈ります。

患者さんに１対１で長く接することができるから、理学療法士をめざしました。 取材日:7月30日

保健医療学部
理学療法学科1年
（左から）
大山拓真さん
栃木県立栃木高校出身
宮田義潤さん★
群馬県立太田高校出身
吉原光さん
福島県磐城桜が丘高校出身

入学直後に学科で実施した「フレッシュマンキャンプ」で一気に友だちと打ち解けることができました。部活やサークルの先輩も、近づきやすく、頼りになる存在です。

宮田さんのアパートは市街地の中の緑が多い閑静な一帯。家賃は36000円。徒歩圏内に、スーパー、ホームセンター、書店、飲食店など多くの店が揃っています。通学は自転車。夏休みに地元に帰って、運転免許を取る予定です。

宮田さん：高校1年生の時、膝内側半月板損傷でリハビリを受けたことが、理学療法士をめざすきっかけになりました。

高校2年生のとき、県大会の団体戦で準優勝して、関東選抜に出場。そのときに使っていたラケットです。

それまでは生物に興味があって、理系への進学を考えていましたが、診療放射線技師の父もこの道に進むことを応援してくれました。

ひとり暮らしでまずとまどったのは、自分で生活のペースを作らないと、時間だけが過ぎていってしまうこと。これまでの生活では、食事や風呂など、家族が作ってくれるペースがあったことを実感しました。

洗濯のために天気を気にしたり、ごみ出しの日を頭に入れたりすることも初めての経験です。自分の名前で契約する場面も経験して、「物事に責任を持つ」ということを身をもって知ることができた気がします。

サークルの先輩直伝のビビンバ

もやし：軽く茹でて、ごま油・鶏ガラスープ・塩をあえる
玉　子：軽く塩をして、ごま油で焼く
ひき肉：ごま油で炒めながら、焼肉のたれをあえる
人　参：塩茹でする
椎　茸：ごま油で炒めながら、塩とにんにくをあえる
きゅうり：生のまま千切り
キムチ：市販のもの
具をのせたら、全体に軽くごま油をかけ、真ん中にコチュジャンをのせて完成。

家に帰ったら食べたいものは、
自分で作ってみると、意外に難しいのがハンバーグ。今度帰ったら、母の作り方をマスターしたい。

医療に関わりたくて、診療放射線技師をめざしました。 取材日:8月8日

保健医療学部 放射線・情報科学科1年
池田有花さん（左）★
福島県立原町高校出身

保健医療学部 看護学科1年
髙倉汐南さん（右）
福島県立福島西高校出身

勉強は、概論や理論の他はまだあまり専門的なところまでは進んでいません。2週間に1度集まるゼミは、先生と近くなれる有意義な時間です。

池田さんが住んでいるのは大学から市街地に向かう途中にあるアパート。車があるので、通学や買い物の不自由はありません。家賃は定額水道代込みで41000円。近くに住むバドミントン部の髙倉さんもしっかりした生活上手タイプです。

池田さん：ひとり暮らしをするにあたって、家族からは「できるの?」と心配されました。でも、自分では、その場になれば何とかなるくらいに考えていました。（あまり気にしない性格）

実際に始めてみると、ひとり暮らしは何かと忙しいというのが感想。生活のペースを作る家事があって、そこから勉強の時間が生まれる。これまで、これを家族がやってくれていたことを実感しました。津波と原発事故のため、父と姉はそれぞれ宮城県内で生活していて、実家は母がひとりで守っています。だからこそ、わたしも家事と勉強を両立させるためにがんばっています。

高校3年生のとき、クラスメートが大学合格祈願としてプレゼントしてくれたマスコットです。

おじといとこが診療放射線技師をしていて、普段からなんとなく話を聞いていたことも、この仕事をめざすきっかけになっています。医師とは違い直接治療行為はできませんが、特に放射線治療の分野では、診療放射線技師が最前線の治療の場面で活躍できることに魅力を感じています。

おしゃれな器に盛り付けたのは…

●チーズハンバーグ
合挽き肉、たまねぎのみじん切り、パン粉、塩コショウ、全卵をこねて、形を整えて焼く。
最後に、とろけるチーズを半分に割いて、クロスして載せ、溶けたら完成。
ソースは、ハンバーグを取り出したフライパンにケチャップ、とんかつソース、砂糖をいれて煮つめる。

●ポテトサラダ
茹でてつぶしたじゃがいも、生きゅうり、ハム、茹でた人参、コーン（缶詰）を塩コショウとマヨネーズであえる。

家に帰ったら食べたいものは、
池田さん：母のハンバーグ
髙倉さん：母の餃子はおいしい！